

安全データシート(SDS)

1. 化学品及び会社情報

会社名 株式会社 建築の友
 住所 三重県名張市蔵持町原出521-1
 担当部門 営業部
 電話番号 0595-61-0453
 FAX番号 0595-61-0452

整理番号

作成・改訂 2018年08月07日

製品名(商品名, 化学名) 高性能潤滑剤 15ml

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性 可燃性・引火性エアゾール 区分1
 引火性液体 区分2
 健康に対する有害性 皮膚腐食性・刺激性 区分2
 眼に対する重篤な損傷・眼刺激性 区分2A
 生殖細胞変異原性 区分2
 特定標的臓器・全身毒性(単回曝露) 区分2(呼吸器系、中枢神経系、血液、腎臓、肝臓)
 区分3(麻酔作用)
 特定標的臓器・全身毒性(反復曝露) 区分1(肺、皮膚、神経系)
 区分2(肝臓、腎臓、血液、骨髄)
 吸引性呼吸器有害性 区分1
 環境に対する有害性 ー

※上記で記載がない危険有害性情報は、区分外又は分類対象外か分類できない

GHSラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語

危険

危険性有害性情報

極めて可燃性／引火性の高いエアゾール
 高压容器:熱すると破裂のおそれ
 引火性の高い液体及び蒸気
 皮膚刺激
 強い眼刺激
 遺伝性疾患のおそれの疑い
 呼吸器系、中枢神経系、血液、腎臓、肝臓の障害のおそれ
 眠気又はめまいのおそれ
 長期にわたる、又は反復曝露による肺、皮膚、神経系の障害
 長期にわたる、又は反復曝露による肝臓、腎臓、血液、骨髄の障害のおそれ
 飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ
 水生生物に有害

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区分 混合物

化学名又は一般名	含有量	化審法番号	CAS No.
石油系炭化水素	37.54%	非公開	非公開
2-メチルペンタン	6.46%	(2)-6	107-83-5
3-メチルペンタン			96-14-0
石油系脂肪族混合物溶剤	2.45%	(9)-1700	64742-88-7
ニュートラル潤滑油用基油	1.41%	(9)-1692	64741-97-5
	0.14%		64741-88-4
ナフテン系重質石油留分 (高度水素化処理)	0.71%	(9)-1702	64742-52-5
流動パラフィン	0.28%	(2)-10	8012-95-1
溶剤脱ワックス重質飽和炭化水素 石油留分	2.17%	(9)-1703	64742-65-0

ジプロピレングリコールモノメチル エーテル	1.41%	(2)-426	34590-94-8
エチレングリコールモノブチル エーテル	0.14%	(2)-407	111-76-2
酢酸n-ペンチル	1.65%	(2)-733	628-63-7
ジノニルナフテン酸カルシウム	0.28%	(4)-473	57855-77-3
PTFE(テフロン)	3.16%	非公開	非公開
プロパン	42.2%	(2)-3	74-98-6
イソブタン		(2)-4	75-28-5
ノルマルブタン			106-97-8

4. 応急措置

＊以下のいかなる場合においても、応急処置を速やかに行い、必ず医師の診断を受けること。

目に入った場合:	直ちに清浄な水で15分以上注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 できるだけ速やかに眼科医の手当てを受けること。
皮膚に付着した場合	眼の刺激が続く場合は、医師の診断・手当てを受けること。 付着物を布にて素早く拭き取る。衣類が汚染された場合は直ちに脱ぐこと。 速やかに多量の水と石鹸(又は皮膚用の洗剤)で十分に洗い落とす。 また溶剤が全身にかかった場合は、流水またはシャワー等で十分に洗い流す。 ガスの付着を受け、凍傷となった場合には衣類は脱がせず、そのまま多量の水又は温水で洗い流す。
吸入した場合	外観に変化が見られたり、痛みがある場合には医師の診断・手当てを受けること。 蒸気、ガスを大量に吸い込んだ場合には、被災者を直ちに空気の新鮮な場所に移し、暖かく安静にする。呼吸が不規則か止まっている場合には人工呼吸を行う。 直ちに医師の手当てを受ける。
飲み込んだ場合	蒸気、ガスを吸い込で気分が悪くなった場合には、空気の新鮮な場所で安静にし、医師の診断・手当てを受けること。 誤って飲み込んだ場合には、水で口をよくすすぎ、安静にして直ちに医師の手当てを受けること。 嘔吐物は飲み込ませないこと。医師の指示による以外は無理に吐かせないこと。

5. 火災時の措置

消火剤	二酸化炭素、粉末、泡(耐アルコール性)。 散水又は噴霧水は大規模火災の際にのみ利用する。
特有の危険有害性	内容液と蒸気及びガスは高度に引火性である。熱、炎と接触した場合激しい火災の危険がある。 蒸気及びガスの場合は着火源まで相当な距離があっても引火する恐れがある。 火災現場にエアゾール容器があると激しく破裂する恐れがある。
消火方法	火災、燃焼により刺激性、腐食性又は毒性のガスが発生する恐れがある。 作業は風上から行い、有毒なガスの吸入を避ける。 危険でなければ可燃性の物を周囲から素早く取り除くこと。 火災現場にエアゾール容器があると激しく破裂する恐れがあるため、消火活動には距離を十分にとり、高温にさらされる製品容器には水等をかけて冷却する。 消火後も大量の水を用いて容器を冷却する。
消火者の保護	消火者は必ず適切な保護具を(耐熱着衣、保護眼鏡等)を着用し、防毒マスク等を装備する。

6. 漏出時の措置

人体への注意事項	作業の際には適切な保護具(保護手袋、保護眼鏡、保護衣、前掛け等)を着用する。 漏れ発生時(噴出時)には風上より処置を行い、容器の漏出部は上向きにし、ガスを完全に噴出させてから処置をすること。 付近の火気を止めること。 付近の着火源、高温体及び可燃物を素早く取り除き、風下の人を避難させる。 着火した場合に備えて適切な消火器を準備する。 粉塵、蒸気、ガスの吸入及び皮膚や眼への接触を避ける。 屋内で漏出した場合は十分に換気を行うこと。
環境への注意事項 回収・中和	河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。 衝撃、静電気にて火花が発生しない材質の用具を用いて回収する。 漏出液を密閉式の容器に集め、残留分を土、砂、おがくず、ウエス等に吸収させて安全な場所に場所に移す。残りをウエスや雑巾等でよく拭き取ること。

回収・中和	内容物は個体潤滑性を有するため滑り易い。床面や履物に付着した場合は転倒の恐れがある。 従って、飛散した床面や付着した履物は水洗い等を行い取り除くこと。 少量の場合は砂、おがくず、ウエス等を用いて吸収し、密閉できる空容器に回収する。 大量の場合は盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いて回収する。
二次災害の防止策	すべての着火源を速やかに取り除く。近くでの喫煙、火花、火気の禁止。 漏出液を排水溝や下水溝等に流してはならない。 廃棄物は関係法規に従い処理すること。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	静電気対策のため、設置等は接地し、電気機器類は防爆型(安全増型)を使用する。 適切な保護具を着けて作業すること。 屋外又は換気の良い場所でのみ取扱うこと。 密閉された場所における作業には、十分な局所排気装置を設置しなければならない。 火気、スパーク、高温物付近では使用しないこと。火気厳禁。 火炎に向かって噴射しないこと。火の中に入れないこと。 温度が40℃以上となる所では、容器が破裂する恐れがあるため、取扱わないこと。 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずる等の乱暴な取扱いをしてはならない。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 取扱い後は手洗い等を十分に行う。
保管	乳幼児の手の届かない所に置くこと。 直射日光を避け、風通しの良い所に保管する。 火気、熱源から遠ざけて保管すること。 温度が40℃以上になる所には置かないこと。 缶の錆による破裂を防ぐため、水回りや湿気の多い場所には保管しないこと。 その他、消防法、労働安全衛生法等の法令に定めることに従う。

8. 暴露防止及び保護措置

設備対策	取扱い設備は防爆型を使用する。 静電気放電に対する予防措置を講ずること。 排気装置をつけて、蒸気が滞留しないようにする。 取扱い場所の近くには、高温、発火源となるものが置かれられないような設備とすること。 取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置する。
------	--

暴露限界値

	管理濃度	許容濃度	
		日本産衛学会(2011年版)	ACGIH(2011年版)
石油系炭化水素	未設定	未設定	未設定
2-メチルペンタン	未設定	未設定	未設定
3-メチルペンタン	未設定	未設定	未設定
石油系脂肪族混合物溶剤	未設定	未設定	未設定
ニュートラル潤滑油用基油	未設定	未設定	未設定
ナフテン系重質石油留分 (高度水素化処理)	未設定	未設定	未設定
流動パラフィン	未設定	未設定	未設定
溶剤脱ワックス重質飽和炭化水素 石油留分	未設定	未設定	未設定
ジプロピレングリコールモノメチル エーテル	未設定	未設定	TWA 100ppm STEL 150ppm(Skin)
エチレングリコールモノブチル エーテル	25ppm	未設定	TWA 20ppb
酢酸n-ペンチル	100ppm	未設定	TWA 50ppm STEL 100ppm
ジノニルナフテン酸カルシウム	未設定	未設定	未設定
PTFE(テフロン)	未設定	未設定	未設定
プロパン	未設定	未設定	1000ppm
イソブタン	未設定	500ppm(1200mg/m ³)	1000ppm
ノルマルブタン	未設定	500ppm	800ppm

保護具	
呼吸器の保護具	有機ガス用防毒マスク、送気マスク、空気呼吸器
手の保護具	保護手袋(耐溶剤性)
目の保護具	保護眼鏡、保護面
皮膚・身体の保護具	帯電防止の保護衣、前掛け(耐溶剤性)、通電性の靴等

9. 物理的及び化学的性質

	原液	噴射剤
外観	半透明茶褐色懸濁液	常温では無色の気体
融点	データなし	-187.7℃～-138.4℃
沸点	62℃ (2-メチルペンタン)	-42.1℃～-0.5℃
引火点	-20℃以下 (2-メチルペンタン)	-104.4℃～-73.8℃
発火点	データなし	405℃～550℃
爆発範囲	1.2～7.7vol% (2-メチルペンタン)	1.8～9.5vol%
比重(at20℃)	0.83 (at20℃)	0.56 (at20℃)

10. 安定性及び反応性

安定性	通常の手扱い条件においては安定である。 40℃以上になると破裂の恐れがある。
危険有害反応可能性 避けるべき条件	過剰な圧力又は熱を放出する危険有害な反応又は重合は起こらない。 高温、加熱、スパーク、裸火の暴露、混触危険物質との接触。 高温多湿な場所での保管及び火気付近での使用。
混触危険物質	強酸化剤。
危険有害分解生成物 その他の有害性情報	燃焼により、一酸化炭素、二酸化炭素、微量の金属酸化物、硫黄酸化物を発生する。 蒸気及びガスは引火して爆発する恐れがある。

11. 有害性情報

急性毒性	経口	成分の急性毒性値は、石油系炭化水素=5g/kg以上(鉱油としての推測値)、2-メチルペンタン=データなし、3-メチルペンタン=データなし、エチレングリコールモノブチルエーテル=1746mg/kg、石油系脂肪族混合物溶剤=28000mg/kg、ナフテン系重質石油留分(高度水素化処理)=5001mg/kg、ニュートラル潤滑油用基油=5001mg/kg、流動パラフィン=22000mg/kg、溶剤脱ワックス重質飽和炭化水素石油蒸留物=5001mg/kg、ジプロピレングリコールモノメチルエーテル=5001mg/kg、酢酸n-ペンチル=7777mg/kg、ジノニルナフテン酸カルシウム=5001mg/kg。区分外。
	経皮	成分の急性毒性値は、石油系炭化水素=5g/kg以上(鉱油としての推測値)、2-メチルペンタン=データなし、3-メチルペンタン=データなし、エチレングリコールモノブチルエーテル=567mg/kg、石油系脂肪族混合物溶剤=28000mg/kg、ナフテン系重質石油留分(高度水素化処理)=5001mg/kg、ニュートラル潤滑油用基油=5001mg/kg、溶剤脱ワックス重質飽和炭化水素石油蒸留物=5001mg/kg、ジプロピレングリコールモノメチルエーテル=9500mg/kg、酢酸n-ペンチル=5379mg/kg、ジノニルナフテン酸カルシウム=20000mg/kg。区分外。
皮膚腐食性・刺激性	吸入(蒸気) 吸入(ミスト)	データ不足のため分類できない。 データ不足のため分類できない。 石油系脂肪族混合物溶剤、ナフテン系重質石油留分(高度水素化処理)、エチレングリコールモノブチルエーテル、ジノニルナフテン酸カルシウムを含むため混合物として区分2「皮膚刺激」とした。
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性		石油系脂肪族混合物溶剤、流動パラフィン、エチレングリコールモノブチルエーテル、ジノニルナフテン酸カルシウムを含むため混合物として区分2A「強い眼刺激」とした。
呼吸器感作性又は皮膚感作性 生殖細胞変異原性		データがなく、またデータ不足のため分類できない。 ニュートラル潤滑油用基油を含むため混合物として区分2「遺伝性疾患のおそれの疑い」とした。
発がん性 生殖毒性 特定標的臓器毒性(単回曝露)		データ不足のため分類できない。 データ不足のため分類できない。 ニュートラル潤滑油用基油を含むため混合物として区分2「呼吸器系、中枢神経系、血液、腎臓、肝臓の障害のおそれ」とした。

特定標的臓器毒性(単回曝露)	石油系脂肪族混合物溶剤、ジプロピレングリコールモノメチルエーテル、酢酸n-ペンチル、LPGを含むため混合物として区分3「眠気又はめまいのおそれ」とした。		
特定標的臓器毒性(反復曝露)	ニュートラル潤滑油用基油、酢酸n-ペンチルを含むため混合物として区分1「長期にわたる、又は反復曝露による肺、皮膚、神経系の障害」とした。		
吸引性呼吸器有害性	石油系脂肪族混合物溶剤を含むため混合物として区分2「長期にわたる、又は反復曝露による肝臓、腎臓、血液、骨髄の障害のおそれ」とした。		
	石油系炭化水素を含むため混合物として区分1「飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ」とした。		
12. 環境影響情報			
水生環境急性有害性	データ不足のため分類できない。		
水生環境慢性有害性	データ不足のため分類できない。		
オゾン層への有害性	モントリオール議定書の附属書に列記されたオゾン層破壊物質を含まないため分類されない。		
13. 廃棄上の注意			
廃棄をする場合	中身を使い切ってから、火気のない戸外で噴射音が消えるまでボタンを押し、ガスを完全に抜く。ガスを完全に抜いた後の内容液は、都道府県知事の許可を受けた専門の産業廃棄物処理業者に委託し処理すること。		
残余廃棄物			
汚染容器・包装	各自治体の法令に従い廃棄すること。		
14. 輸送上の注意			
国際規制	UN 1950		
国連番号	CLASS 2. 1		
国連分類			
国内規制	消防法のほか法令の輸送についての規定に従う。		
陸上規制情報	船舶安全法の規定に従う。		
海上規制情報	航空法の規定に従う。		
航空規制情報	取扱い及び保管上の注意事項に従うこと。		
特定の安全対策	容器からの漏れのないことを確かめ、損傷のないように積み込み、荷崩れ防止を確実に行うこと。運搬に際しては容器を40℃以下に保ち、転倒、落下、損傷がないように注意すること。		
15. 適用法令			
労働安全衛生法	危険物・引火性の物	石油ナフサ 鉱油 1-(2-メトキシ-2-メチルエトキシ)-2-プロパノール 酢酸ノルマル-ペンチル ヘキサン ブタン エチレングリコールモノノルマル-ブチルエーテル	
	名称等を表示・通知すべき危険物及び有害物		
	名称等を通知すべき危険物及び有害物		
	第2種有機溶剤		
	エチレングリコールモノノルマル-ブチルエーテル 酢酸ノルマル-ペンチル		
消防法	危険物 第4類引火性液体	第一石油類 危険等級Ⅱ（非水溶性）	
船舶安全法	引火性液体類		
航空法	引火性液体		
16. その他の情報			
前回改訂日	2014年09月12日		
参考文献	原料(M) SDS 液化石油ガス(M) SDS 労働安全衛生法対象物質データ		
その他	本安全データシート(SDS)は現時点で入手できる資料、データに基づき作成しておりますが、すべての情報を網羅しているわけではありません。また、新しい知見の発表や従来の説の訂正により内容に変更が生じることがあります。なお、このSDSは一般的な取扱いを対象としたものです。取扱う際は、ここに記載されている内容を参考にし、十分に注意して取扱って下さい。以上は情報提供であって、保証するものではありません。		